

(4) へい死・淘汰要因 (表 12 参照)

アロウカナ交雑のうち、へい死・淘汰率が高かったのは、「③AR×MK」であり、その要因は、特に運動器病に係るもの(脚弱(7羽中4羽)、脚曲がり(7羽中1羽))が多く発生し、その他、消化器病(脂肪肝出血症候群)、形態異常(交差嘴)が発生したものの、特に目立った症状はなく、検定終了時の454日齢までのへい死・淘汰率は7.1%となった。

次いで、へい死・淘汰率が高かった「①AR×EC」では、腫瘍に係るもの(4羽中2羽)が発生し、その他、運動器病(脚弱)、消化器病(脂肪肝出血症候群)が発生したものの、特に目立った症状はなく、へい死・淘汰率は4.1%となった。

「②AR×MB」では、弱雛(3羽中2羽)が発生し、その他、運動器病(脚弱)が発生したものの、特に目立った症状はなく、へい死・淘汰率は3.0%となった。

烏骨鶏交雑のうち、へい死・淘汰率が高かったのは、「④UK×MB」であり、その要因は、消化器病(脂肪肝出血症候群(8羽中2羽))、局所異常(腹腔内出血(8羽中2羽))が発生し、その他、運動器病(脚弱)、消化器病(肝内出血)、発育不良、弱雛が発生したものの、特に目立った症状はなく、検定終了時の454日齢までのへい死・淘汰率は8.1%となった。

「⑤UK×YA」では、消化器病(肝内出血)、腫瘍が発生したものの、特に目立った症状はなく、へい死・淘汰率は2.0%となった。

(表 12) へい死・淘汰率 (日齢/羽数)

区分	アロウカナ交雑			烏骨鶏交雑	
	① AR×EC	② AR×MB	③ AR×MK	④ UK×MB	⑤ UK×YA
脚弱	1.0% (182/13羽)	1.0% (184/13羽)	4.1% (32~/4羽)	1.0% (183/13羽)	
脚曲がり			1.0% (38/13羽)		
脂肪肝出血症候群	1.0% (439/13羽)		1.0% (404/13羽)	2.0% (375~/23羽)	
肝内出血				1.0% (190/13羽)	1.0% (422/13羽)
腹腔内出血				2.0% (155~/23羽)	
交差嘴			1.0% (57/13羽)		
発育不良				1.0% (57/13羽)	
腫瘍(消化器)	2.0% (263~/23羽)				1.0% (373/13羽)
弱雛		2.0% (1~/2/23羽)		1.0% (8/13羽)	
計	4.1% (4羽)	3.0% (3羽)	7.1% (7羽)	8.1% (8羽)	2.0% (2羽)

※ 64W(454日齢:H28/7/2)までのデータとした。

※ へい死・淘汰率は、え付羽数から検査淘汰などを除いたものを補正え付羽数とし、その羽数に対する率とした。